

電力土木技術協会 会長就任挨拶

(第48回通常総会 就任挨拶より抜粋)

このたび歴史ある電力土木技術協会の会長に選任されたました藤野でございます。この大役は大変な荣誉であり重責と受け止め、ご挨拶申し上げます。

電力土木技術協会には幾つかの課題があると認識しています。

第一は、ますます複雑化・多様化し日々変化する社会の要請に当協会がいかに対応するのですが、これは当協会の日頃の活動の目的となっている「電力土木技術の向上」こそが、まさに社会的ニーズに応えるものであると考えます。

第二の課題は、約3,300名の個人会員、三百数十社の法人・賛助会員のニーズにいかに対応するかという課題です。これも多様化し変化していますので、すべてを満足することは不可能だとしても、潜在的な要請を含めて会員ニーズを正確に把握し、効率的なサービスを提供していくこと、それが求められています。

第三の課題は一般的な広報活動の重要性です。これについては、協会誌(No.325)「ネット社会における組織の持続性」にも記しましたが、ネット社会は「口コミ」の巨大システムであり、その情報には看過できない影響力があります。しかし電力土木技術協会のような組織が社会の理解を得て存続するためには、様々な外部の理解者を内部化し、サポーターとしての役割を果たしてもらえらるかに掛かっており、そのためにはできる限りの情報を公開しながら、社会の理解を求めなければなりません。「情報公開」と「著作権や会員の保護」をどう両立させるか。今後この発想の転換が協会にとっての大きな課題であろうと思います。

小生は当協会の会員になってから41年経ちましたが、いつまでも矍鑠とされている大先輩から見るとあまりにも若輩であり、新進気鋭の方々から見るとあまりにも老頭児です。果たして皆様のご期待に応えられるかどうか、いささか不安がありますが、過去4年にわたり監事を努めさせて頂いたことを唯一の手がかりに、何とかキャッチアップしたいと考えております。



上記を含め協会が抱える多くの課題について、これらを一気に解決する妙案があるわけではありません。ひとつひとつじっくり取り組むこととし、皆さんでよく議論しながら最適解を見つけて行きたいと思っております。

与えられた責務を果たすべく誠心努力する所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

電力土木技術協会 会長
藤野 浩一